

富山市立図書館

図書館だより

第1号



目次

特集 富山市立図書館 30 年のあゆみ.....	1
図書館探検.....	3
こんなサービスをしています.....	3
私のおすすめ本.....	5
山田孝雄文庫の資料.....	6
東部分館開館のおしらせ.....	7

特集

富山市立図書館30年のあゆみ

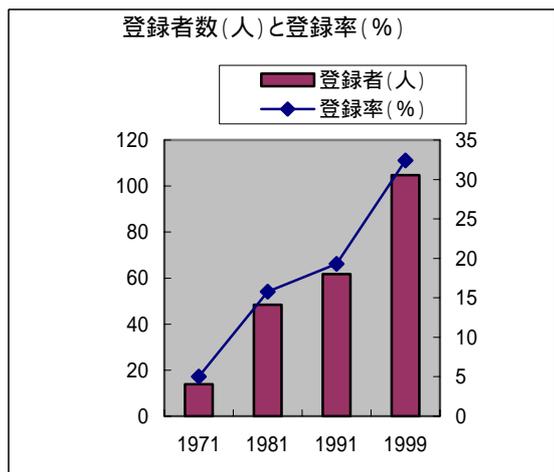
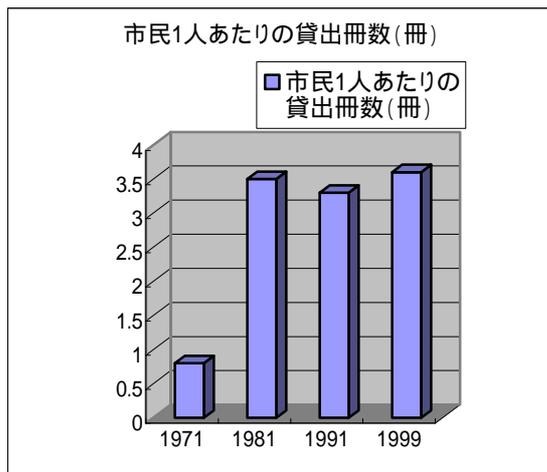
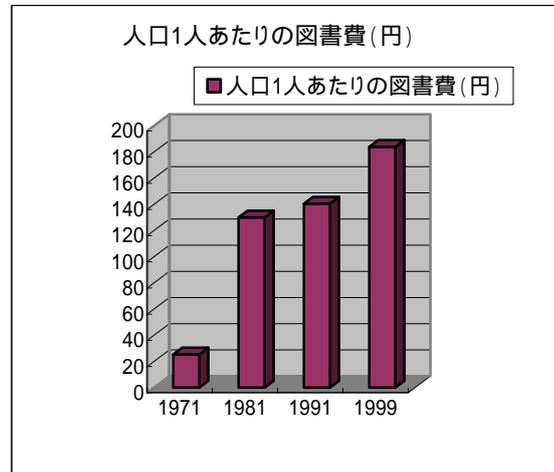
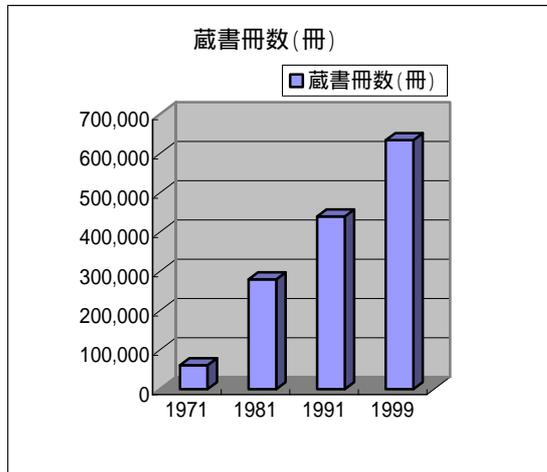
前史 明治42年10月1日、皇太子行啓記念として、富山市役所で開館式を挙行され、同年11月20日から市役所の一部を借りて図書閲覧を開始した。明治43年10月富山市総曲輪483番地旧税務所跡に移転し、大正元年9月総曲輪483番地ノ1に新館舎竣工し、同12月9日に新築落成式を挙行した。その後寄付などにより書庫、特別閲覧室も建設され、昭和9年5月、富山県中央図書館に指定される。昭和18年戦時中の統制処置として富山県立図書館に併合され、戦後になっても富山市立図書館は再建されなかった。

図書館年表

- 昭和45年6月 市制80周年事業として図書館を建設し、現在地(城址公園内)で開館。図書館サービスを開始する。
- 昭和46年1月 音楽資料室を開室。
同年10月 自動車文庫1号車の購入し、巡回サービス開始。(現在は3台で巡回)
- 昭和47年9月 水橋分館を富山市役所水橋支所に併設。(以後48年に岩瀬、49年に呉羽、55年に豊田、56年に藤ノ木、57年に蜷川、58年に月岡、62年に大広田分館を開設し、現在は15分館となる)
- 平成元年7月 館内改装工事を行ない、読書室を4階に移し一般図書室及び参考図書室とし、児童読書室、親子読書室及び音楽資料室を5階に移し青少年図書室とする。
同年9月 図書館コンピュータシステムを導入し、中央館と自動車文庫がコンピュータにより貸出サービスを開始。
- 平成2年4月 中央館と分館をオンラインで結ぶネットワークが完成し、分館でもコンピュータにより貸出サービスを開始。
- 平成5年10月 音と映像鑑賞コーナーを開設し、AV資料の貸出サービスを開始。
- 平成7年4月 一般図書室及び参考図書室の開館時間を午後7時まで延長。
- 平成8年4月 翁久允文庫を開設。
- 平成9年6月 コンピュータシステムを更新。
- 平成11年11月 山田孝雄文庫を開設。



図で見る 30 年のあゆみ



昭和 44 年、山王公民館に開設された準備事務所で、ゼロから図書の整理が始まりました。開館した昭和 45 年度の蔵書は約 5 万冊。現在では、みなさんが手にとってみることのできる中央館の書架の図書は約 15 万冊。分館の図書が約 23 万冊。書庫の図書が約 20 万冊。合わせて約 58 万冊となりました。

資料の受入は、以前は目録カードに手書きしたものを手動で一枚一枚印刷して、書名目録・分類目録などを作成していました。今は、コンピュータにデータを入力しています。みなさんも、タッチパネルで簡単に資料を検索できます。

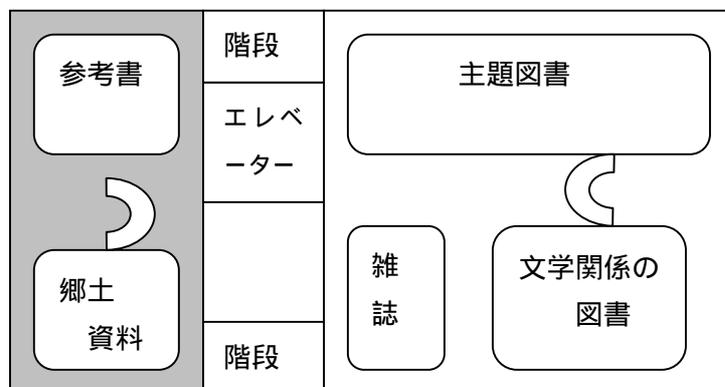
図書館資料は、新聞・雑誌に加え、CD・ビデオも貸出できるようになりました。

私たちは、図書館がさらに利用されることを目指しています！

図書館探検

参考室

一般室



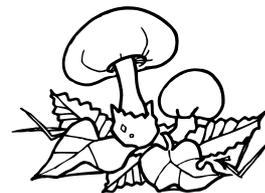
参考図書室

参考図書(辞典・事典・図鑑・統計・索引など)と郷土資料、新聞の縮刷版(『日本経済新聞』・『読売新聞』)、電話帳、官報・富山県報などがあります。参考図書は貸出していませんが、有料でコピーすることができます。

ふだん一般図書室に直行される方が多いですが、時間のあるときこの部屋にも足を踏み入れてみてください。郷土に関する思いがけない発見に出合えるかもしれません。

また、なにかお調べのことがありましたら、職員にご相談ください。できるかぎりお手伝いします。

こんなサービスをしています



増加図書目録

毎月15日頃、『本との出会い豊かな人生 富山市立図書館増加図書目録』を発行しています。これは前の月の1日から月末までに受入整理した図書・ビデオ・CDのすべてを掲載しています。

この目録には図書情報が、
請求記号 書名 著者名 出版社
の順に、1pにつき平均46点、毎号32pにわたって記載されています。

紙面の都合から、図書の頁数や大きさは載せていませんが、図書館が受入した資料のすべてを載せて、利用者のみなさんにお知らせするものです。この増加図書目録を、図書館の種々のサービスのうち、読書案内サービスのひとつと位置付けております。

また、富山市のホームページの中に、図書館の蔵書を検索できるページを、インターネットを通じ公開しています。これには図書館の全蔵書が載っていません。(<http://sv06.city.toyama.toyama.jp/>)

これらの目録をご覧になって、お読みになりたい本がありましたら、図書館の窓口でお尋ねください。その本が貸出中でも、「予約サービス」により、その本が返りしだいお読みになることができます。

予約サービス

図書館でお探しの本が、書棚に見当たらないことがあります。そういうとき、「予約サービス」をご利用になると便利です。

予約は図書館の「予約用紙」にあなたのお名前・お電話・図書利用カードの番号とお探しの図書の書名・著者名・出版社・請求記号などをお書きください。

その本が貸出中のとき、本が返ってきたらお取りおきしておきます。

その本を図書館が所蔵していないとき、購入して用意することもできます。

その本が購入できないとき、他の図書館から借用して用意します。

いずれも用意ができればすぐに、あなたにご連絡します。連絡してから1週間お取りおきしておきますので、その間に借りにおいでください。

レファレンスサービス

自分で調べたいことがあるのに、どうやって調べたらよいのかわからない、またもっと詳しく知りたい。そんなとき参考室の職員にお尋ねください。

たとえばこんな質問を受けました。

Q 越中おわら節について調べるため昭和4年に出版された『小原節大全』を見たい。

A 自館の蔵書を検索しましたが所蔵していませんでした。富山市立図書館は昭和45年に開館したためそれ以前の図書はあまり所蔵していません。そこで『富山県郷土資料総合目録』を見ると、小杉町立図書館で所蔵していることがわかり、県立図書館をつうじて取り寄せました。この図書館で所蔵していない図書

も県内の図書館や国立国会図書館から借用できることがあります。

Q 手伝町に住んでいたのだが、なぜ「手伝」という名前がついているのかその由来を知りたい

A 『富山市町名の由来』『城下町富山の町民とくらし』『富山町づくし』『角川日本地名大辞典』などによると、「手伝町」とは江戸期～昭和 40 年に使われた町名で、舟橋船頭の手伝人が居住していたことからこの名前になったとあります。舟橋に関して成立した町にはこの他にも「船頭町」「舟橋新町」などがあるようです。

私のおすすめ本



『長い冬』 岩波少年文庫

L.I.ワイルダー作 鈴木哲子訳

この本を読んだのはもう 23 年以上も前になるが、そのときの圧倒されるような感動と、生きるために万難を尽くす人間の強さを、わたしは今でも忘れることができない。昨年、再びこの本を読む機会があって読み直してみたのだが、やはり変わらぬ力強さを感じさせられた。それは、いかなる自然の脅威の前でも、結束して生き延びる姿勢を人間はもっているということである。そしてこの時代がもつシンプルで「何ももたないことの幸福」を、まざまざと見せつけられ、それが失われてしまった社会にいる私には、羨ましいのだ。

この本の舞台は、開拓時代のアメリカで、自分たちの安住の土地を求めて、住む場所を転々と移動している家族の物語である。この本の出だしは、照りつける太陽の下で草を刈る父と娘の登場で始まる。まだどこにも冬の兆しはない。しかし、ジャコウネズミの巣が今まで見たこともないほど頑丈だからこの冬は厳しいと父親はいう。その予測は的中した。秋には、トーモロコシやトマトやカボチャの収穫を待たないうちに霜でやられてしまう。この後から、インディアンが予告した通り長い冬に突入して行く。読む者を、気温の低さ、雪の冷たさ、線路が凍結して物資が届かない不安に陥れ、ただひたすら読む者を圧倒し、凍えさせる。壮絶としか言いようもない自然の脅威の前で、いかに人間がひ弱で無力かを思い知らされる。生きることは、自分の直感と判断だけが頼みであって、気象の長期予報などのなかった時代には、その感覚が鈍ければ死を招いたのだ。自分の呼吸で凍ってしまう動物たちにしても、呼吸のわずかな水分が命取りになることを、

現代の私たちは知らない。研ぎ澄まされた感覚は、現代社会の中では育ちにくい。自然から隔てられたところに生の営みがあるためだ。

この一家は、これ程の厳しい冬を、歌い、踊ってしのぐのだ。食べることさえ十分と言えないからこそ、工夫が生まれる。青いカボチャでパイを作ったり、干し草をきつく巻き込んで、薪の代わりにしたりと知恵を働かせ、全知全能をフル回転させて乗り切る。一人では決して生きられないという現実が、人々を結束させ、一丸となって長い冬に耐えさせる。読み終わった時は、体が芯から冷え込んでいることに気づくだろう。希望と絶望に翻弄されながらも、生きることの執念は、大自然の脅威に勝利する。いつの間にか、私たち読者は、ローラとともに冬を乗り切り、やがて来る春を待ち焦がれていることに気づかされるだろう。この作品は、私たちが今抱えている精神的病巣に、多くの啓示を与えてくれるもののような気がしてならない。

菅原 千恵子

執筆者紹介

宮城県生まれ。宮城学院女子大学日本文学科卒業。1972年「文学」(岩波書店)に「『銀河鉄道の夜』新見」を発表。1994年に「宮沢賢治の青春 ただ一人の友保阪嘉内をめぐって」(宝島社)を出版。日本文学協会会員。北陸児童文学協会「つのぶえ」同人。現在は富山市に住んで賢治研究を続けている。

山田孝雄文庫の資料



平成8年12月20日、富山市名誉市民山田孝雄博士の旧蔵書約18,000点が、遺族代表山田俊雄氏から寄贈されました。

山田孝雄博士は明治8年富山市総曲輪に生まれ、27歳で『日本文法論 上巻』を大阪宝文館から出版し、以後81歳まで『平家物語につきての研究』『日本文法講義』『万葉集講義』『連歌概説』『三宝絵略注』『俳諧文法概論』

など、次々に著書を出版、その量は二万余ページにのぼるといわれています。

日本語文法、国文学の研究や、古典の復刻出版などに多大な貢献を成し遂げました。昭和4年54歳のとき、27年前に提出した「日本文法論」により、文



学博士の学位を受け、また昭和 32 年には文化勲章を受章しました。

この山田孝雄文庫には、和書 8,754 点、洋書 167 点、雑誌 445 誌、著作 840 点（これらは洋装本です）と写本 1400 余点、刊本 4,600 余点、唐本 130 余点、和古書の複製 600 余点（これらは和装本です）があります。洋装本は整理を終え『山田孝雄文庫目録 洋装本の部』として目録を作成し、現在は和装本の整理を進めております。

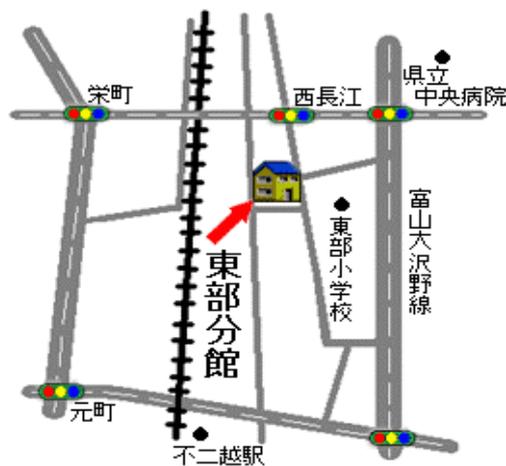
次号からはこの山田孝雄文庫に所蔵している本を紹介します。

東部分館開館のおしらせ



東部分館が平成 12 年 8 月 1 日新築オープンしました。

これまで東部児童文化センター 2 階に東部分室として子どもたちに親しまれてきましたが、このたび東部地区センターの移転にともない、東部地区センター新館の 2 階に移転し、他の分館と同様おとなと子どもを対象とする東部分館に生まれ変わりました。



住所：石金 1-2-13

電話：076-493-1886

編集後記 図書館サービスの種々相を利用者のみなさまに紹介したり、図書館や図書館の資料を紹介したりし、図書館をますます活用してもらおうと、このような『図書館だより』を発行することにしました。読んで面白く、かつ利用者に耳寄りな情報の提供、をめざして工夫したいと思っておりますが、今回はちょっと硬いものになりました。(亀)

平成 12 年 10 月 27 日 富山市立図書館発行